

診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会 第8号／平成26年11月

URL <http://www.n-smeca.jp/> TEL 025-378-4021 FAX 025-378-4022

一人では良い仕事ができない。

顧問設置について

**一般社団法人新潟県中小企業診断士協会
会長 中村公哉**



いろいろな考え方があるかもしれませんが、診断士協会では、お互いの専門分野を活かし提携して業務にあたるという話が過去からあります。逆説的に考えると、できていないからわざわざこの話がでているのかもしれませんが。

共同での業務の実施は、責任の所在を明確にすること（権限の所在も同じ）、更にお互いの知識のベースが整っていること、更に卓越した専門知識を持つ者が含まれていることが重要だと考えます。

プロ意識があるということは、お互いが卓越した専門家であるという自負があります。お互いの知識のベースに関しては、診断士協会の研修で務めてきましたが、十分な出席率が得られない場合があると感じます。診断士制度は過去から変遷しており、更に職務領域が変化している中で、知識のベースが整っているとは言えない状況のように感じます。そのため、今後も診断士が担うべき役割と、会員ニーズを収集しながら、今後も研修の検討をしてみたいです。

私ごとになりますが、小売業や商店街の仕事もしますが、この面に関する経験と知識が不足していると感じています。そのため、小売業を営んでいる先輩とコミュニケーションを持ちながら、日ごろから実務的なことを教わっています。しかしながら、積極的にその業務を行っているわけではなく、初期の相談を受け、適切な専門家の紹介を行なう中継ぎをしています。基礎的な知識がなければ、この中継ぎもできずに地域経済の課題の解決につなげることができません。農業に関しても同じです。税務に関しても、会員の中で師がおり、日常的な電話相談などを行っています。

平成26年度の新潟県診断士協会は、このチームでの仕事を行いつつあります。さらに、そのベースを整え、研修の充実により拡大しています。研修は、セミナーだけではなく、コンサルティング実務研修もスタートしており、更にOJTによる教育も実施し始めています。

「良い仕事を求めて、チームで仕事ができる体制」を目指しています。

一般社団法人に移行後、3年目でまだ活用しなかった顧問をこのたび設けました。相談役も含めて、もっと顧問を増やしたかったのですが、理事に図りながら、2名の卓越した専門家の会員を顧問に就任依頼し、ご快諾いただきました。共通する点としては、会員がより金融、経営改善、企業再生に関して、アドバイスをいただける方であること、更に公共的な立場であることがあげられます。

顧問をご快諾いただきました田中満会員、上村修会員ありがとうございます。

お二人には、診断士協会に限らず、会員の師として様々なアドバイスをいただければありがたいです。

協会活動報告

専務理事

近藤 信



はやいもので中村会長率いる現理事一同が当協会の運営を引き継いで半年が経とうとしています。私自身、できる限り中村体制を支えようと意気込んでいましたがこれほどまでの活発な活動は予想できませんでした。ロケットスタートと言っている密度の濃い半年間でした。

毎週土曜日には何かしらの会議もしくは勉強会が催されています。午前・午後連続での「はしご」も当たり前のスケジュールとなっています。おかげさまで私自身土曜日の釣行が激減しました(笑)。月に一度の理事ミーティング(理事会は同時に行い不定期開催)では欠席者も少なく組織本位の将来を見据えた活発な議論が交わされています。各委員会では委員長が率先して段取りや当日運営をこなしてくれています。研究会では今年度より積極的に行っている会員外の方のオブザーバー参加制度により毎回多くの方に集まっています。各委員会や研究会の内容報告は各委員会報告をごらんになってください。

外部とのかかわりでも大きな動きがありました。8月中に包括的連携契約を地銀3行と締結し、診断士協会が組織として業務を受託することを開始しました。さらに信金信組とも契約を締結し(検討中も含め5組織)情報交換会等を企画するなど

緊密な関係構築に向けて鋭意活動中です。また各行政機関からの依頼も着実に増えています。

上記の組織一丸となった活動は数字にも表れています。まず会員が増えています。私が事務方を預りだした5月下旬には78名だった会員数が6名増加し84名となりました。年度当初より組織一丸となり積極的な会員増強活動を行ってきた成果です。また、新入会員の積極的な参加姿勢も相まって各委員会・研究会の出席者数も桁違いに増えています。とくに理事以外の会員の方の参加が増えています。参加してこそその診断士協会です。参加いただければ必ず何かお持ち帰りいただけます。今後も積極的な参加をお待ちしております。

いまひとつの課題(計数面での)であった財政基盤の強化も着々と進んでいます。一般社団法人は組織として収入を得て、構成員のために費用を使い、構成員(会員)に対し受益というかたちで還元しなければなりません。当協会もおかげさまで数々の収益事業を立ち上げ運営しているため、年度当初の予算を大きく上回る収入を計上することができております。ちなみに費用も当初予算を大きく上回っておりますがしっかり黒字を計上しております。

最後に。

理事の方々、多忙な日常においても時間や手間を惜しまず当協会の運営にご協力いただきありがとうございました。心より感謝します。

会員の方々におかれましては、例年以上に事業運営に熱心に積極的にご協力いただき本当にありがとうございました。

金融機関・行政機関の方々におかれましても当協会の運営に多大なご協力をいただき誠にありがとうございました。地域のため、地域の企業のために、今後も活発な活動を行ってまいります。

下半期も理事一丸となって地域のため組織のため仲間のために活動してまいります。何卒宜しく願いいたします。

合掌。

研修委員会

委員長 田村博康



平素は、研修委員会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。今期も約半分が経過したということで、現在の研修委員会の活動の様子と進捗についてご報告させていただきます。

ます。

1. 上半期（5～10月）の活動

◆診断士の学習機会の創出

まずは、研修委員会として重要なミッションである「理論政策更新研修会」のセミナー運営です。本年度は8月24日に開催となりました。内容は、中小企業にとって重要な課題である「事業承継」について実施いたしました。講師として、東京都中小企業診断士協会認定事業承継研究会副会長の佐々木文安先生を講師にお招きし、基本的なスキームから実践的な内容までご講演いただきました。事例研究といたしまして、上越市の越後繊維株式会社の大島哲様より自社の事業承継の苦労話と今後の課題についてお話いただきました。参加者の皆様からも充実した内容だったとお聞きしております。来年度も皆様のお役にたてる内容を企画してまいりたいと思います。

ミニセミナーを10月25日に実施いたしました。内容は「クラウド」です。中小企業の間ではまだまだ、活用数が少ないクラウドコンピューティングですが、総務省のデータを見ると、活用事例が増加傾向にあります。今後、中小企業の活用機会も増えると予測されることから、専門家をお招きし基本事項からセキュリティーまで網羅的に学ぶ機会といたしました。講師はリコージャパン(株)大竹隆生様、日本セキュリティー監査協会の久保田朋秀様から講演いただきました。大竹様からは、クラウドコンピューティングの基本的な内容から、

活用事例までご紹介いただきました。情報化がなかなか進まない中小企業においても実際に活用できる事例などがあり、参加した会員から活用方法について活発な質問がありました。久保田様からは、情報システムにおけるセキュリティーの考え方、企業間取引において情報セキュリティーを活用することでトラブルを回避することが可能であることをご説明いただきました。



◆経営診断実務の実施

企業内診断士向けに経営診断実務機会の創出を行い診断士としての能力を社会に還元するとともに実務ポイントの取得機会としたいとの考えから実施いたしました。今年度はまず、新潟市内で1社、経営実務診断を実施しております。今後は、中越エリアで1社実施する予定にしております。この経営実務診断は、実務ポイントの獲得の他に診断業務の品質向上も目的としております。グループでの診断活動となりますので、報告内容のレベル合わせを行う事が可能となります。この経営実務診断を通じて会員のレベル合わせを行うとともに診断士協会として実力が保証できる会員の紹介につなげていきたいと考えております。

2. 下半期（11～4月）の活動

◆ほんぽ一と起業・経営相談会

今年度から、ほんぽ一と事業（新潟市中央図書館における起業・経営相談会）の運営は事業開発委員会から研修委員会へと引き継がれました。本事業も約半分が終了しました。今年度は、相談者に対してさらなるサービスの向上が図れるよう、相談者から頂いたアンケート結果を担当者にフィードバックしております。現在のところ相談に来ていただいたお客様からは、大変満足頂いております。今後もさらなる品質向上に努めてまいりたいと思います。

◆診断士受験講座の実施

今年度、はじめての取組として中小企業診断士1次試験受験講座を実施しています。2014年10月の企業経営理論の講座からスタートしました。DVDなどで受講するしか手段のなかった新潟県の受験生にとっては、生の講師から受講できるのは非常に大きなメリットがあると思います。受講生の皆様が合格できるよう支援するとともに中小企業診断士の魅力を伝えていければと考えております。科目単位でも受講できますので、お知り合いの方で診断士受験を考えている方がいましたら、ぜひご紹介ください。

◆研究会の活性化

現在、「事業承継研究会」「企業再生支援研究会」「商業サービス業経営革新研究会」「マネジメントシステム最適化研究会」「農業経営研究会」の5つの研究会が存在しております。実践的な内容を中心に各研究会が活動しておりますが、今後もさらなる活性化を目指し、活動内容に応じた支援を考えていきたいと思っております。今年度も2015年3月14日に「研究会成果報告会」を開催いたします。ぜひ皆様も足をお運びください。

3. 最後に

本年度も残り半分となりました。有意義な後半となるように活動を進めてまいりたいと思います。

今後とも会員の皆様からのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

事業開発委員会

委員長 土田正憲



事業開発委員長の土田正憲です。日ごろは当協会の活動に多大なるご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびは委員会報告ということで、本誌担当の広報委員会から執筆を仰せつかりました。早速ですが、当委員会の活動について報告させていただきたいと思います。

○ 委員会方針

事業開発委員会は、本年5月より新体制として、次の3つの方針を掲げてスタートしました。この執筆を機会にあらためて確認したいと思います。

- ① 既存委託元からの受託事業を確実に実施するとともに、支援メニュー・セミナーの提案等により新たな案件を開拓する。
- ② 金融機関、中小企業支援機関、自治体を対象とした支援メニュー・セミナーの提案、交流会等の外部広報を行い、新たな委託元を開拓する。
- ③ 理事並びに各委員会との連携を密にして活動にあたる。

○ これまでの活動

当協会は、本年1月、関東経済産業局から経営革新等支援機関認定を受けました。経営革新等支援機関認定というと長ったらしいので、以後、認定支援機関と表記します。

認定支援機関は、平成24年8月に施行された「中小企業経営力強化支援法」にもとづくものであり、中小企業に対して専門性の高い支援を行う機関です。先述のとおり当協会は認定支援機関にはなったものの、新体制がスタートした時点では活用ま

でに至っていませんでした。7月よりこの活用について検討を始め、体制整備に着手しました。8月からは認定支援機関の利用を開始。金融機関から企業再生案件を受け入れ、経営改善支援センターの経営改善策定支援事業を利用した支援を開始しました。

8月以降は金融機関との業務連携を進めました。これを書いている平成26年10月25日現在、北越銀行様、大光銀行様、第四銀行様、新潟信用金庫様、新潟県信用金庫協会様、協栄信用組合様と業務連携の覚書を交わさせていただいております。この件に関しては、新潟日報、日本経済新聞に記事として掲載されました。今年6月に発行した本誌に、当協会の中村会長は「平成26年度からは中小企業診断士の社会的な役割を認識した行動が重要」と記されています。地域の金融機関との連携を図っていくことは、この役割を担っていくことにはかなりません。また、当協会が認定支援機関を利用した支援を行えるようになったことは、中小企業支援において画期的なことだと思っていますし、なによりも当協会の社会的貢献度の向上につながったと思っています。

○これからの活動

ここまで当委員会の、現在までの活動について記してきました。今後は引き続き金融機関との連携を図っていくとともに、その連携関係を活かしていきます。具体的には、金融機関との情報交換会を実施するほか、中小企業支援機関を含めてセミナー・研修などの企画提案を行っていくことを計画しています。その一部として、製造業系セミナーや情報化投資に関するセミナーなどがあげられます。さらに次年度については、我が国の経済産業政策を踏まえ、地域の中小企業・小規模企業に対する支援事業を関係機関に対して積極的に企画提案していきます。

○委員会活動の実務面に目を転じると

5月から新体制としてスタートした当委員会で

すが、実務面においては、委員長としての私自身、反省の連続です。ただ、委員会メンバーのご協力は大変ありがたいもので、忙しいなかでも時間を割いて委員会に出席し、活動にご協力くださっていることに感謝しています。また、中村会長をはじめとする理事・会員の方々からのご協力にも感謝する次第です。この場を借りて感謝申し上げます。



委員会では活発な話し合いが行われている

○むすびに

当委員会は、事業開発を通じて地域の中小企業の活性化を図ると同時に、当協会の財政基盤の強化を図ることもその担いとしてあげられます。このことをあらためて認識し、引き続き委員会活動に鋭意取り組んでまいります。皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総務委員会

委員長 浅田 淳



総務委員会では、定例的な協会行事の運営、および会員・非会員の交流を主な役割として活動しております。

今年度は、8月に行われました理論政策更新研修後の懇親会を新潟グランド

ホテルにて開催いたしました。約30名の方にご参加いただき、大いに盛り上がることができました。その中には金融機関をはじめ、多くの非会員の方にもご参加いただくことができました。交流の良い機会となったことと思っております。

また、理論政策更新研修の運営バックアップとしまして、資料準備～受付、受講証明書の受け渡しを総務委員会メンバーで担いました。多くのメンバーに参加いただくことで、スムーズに運営サポートができました。総務委員会の皆様、大変お疲れ様でした。

今後ですが、1月24日（土）に新潟グランドホテルにて新春講演会および新年会の開催を予定しており、現在総務委員会ではこれらの内容の企画を行っております。

また、来年は北関東・信越ブロック情報交換会が新潟で開催されるということが決まっています。こちらのフォローを総務委員会で行っていくこととなりますので、引き続き委員の方にはご苦勞をおかけしますが、よろしく願いいたします。

最後に、来年の新年会では、今年に引き続き皆さんで盛り上がるイベントを計画しております。お楽しみに！

広報委員会

委員長 佐野盛也



いつもお世話になっております。広報委員会の佐野です。広報委員会は、主に協会の内部広報（協会内部における情報交流）を担当し、「診断士にいがた SOUPLETTER」の発行をメインの活動としております。

早速ですが、半期の活動内容についてご報告申し上げます。

1. 「診断士にいがた SOUPLETTER 第7号」の発行

「診断士にいがた SOUPLETTER 第7号」を6月に発行致しました。

5月に新体制が発足したことに伴い、中村会長の挨拶ならびに所信表明、新理事・新監事の自己紹介、事務局・各委員会の運営方針・職責の説明をしていただきました。また、研究会紹介として、「農業経営研究会」、「企業再生支援研究会」、「マネジメントシステム最適化研究会」、「事業承継研究会」、「商業サービス経営革新研究会」の各代表から研究会における活動方針や研究テーマの説明をしていただきました。

2. 協会名簿の作成

10月の初旬に、会員の皆様にご案内を差し上げましたが、現在、協会では会員名簿の作成を進めております。背景としては、新潟県診断士協会の会員が相互連絡をとるための会員名簿が存在していないため、委員会や研究会などの事業を実施するうえで、連絡がとりにくい状態にあり、その解消をしたいということが挙げられます。

新潟県診断士協会会員名簿を作成することにより、協会会員間の連絡を円滑にし、新潟県診断士協会の活性化と協会会員同士の交流が促進できるものと思います。12月の配布を目指して準備を進めております。引き続き、名簿作成に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

新入会員紹介

江部 誠一



このたび、県協会に再入会させていただきました江部誠一と申します。株式会社パートナーズプロジェクト(本社:長岡市)に勤務しております。

平成元年から12・3年間ぐらい旧:県支部にお世話になっておりました。

当時の大先輩の先生方の多くがいらっしゃらなく大変さみしく感じますが、反面、新進気鋭の皆様・先生方とご一緒させていただくことは大変光栄に思っております。

前職は地方銀行に勤務しておりました。現在、お客様の経営・改善計画策定のご支援を数件行わせていただいておりますが、以前は皆様方の支援で策定された計画書等をお客様からご提出いただき、ご融資の可否を判断する立場でありました。今回から策定支援というお客様と一体となり経営を考え、悩むということになり、一層やりがいが強くなり感じられるようになりました。

趣味は年齢を重ねても無理なく健康維持ができるスポーツの「卓球」を続けています。

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会および各会員様のますますの発展のために微力ではありますが、鋭意努力してまいりますので、ご指導・ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

山田 貴弘

皆様はじめまして、山田貴弘と申します。新潟県柏崎市出身、昭和49年生まれで現在40才になります。

平成23年9月に診断士登録をしましたが、子供の誕生などと重なり、バタバタしているうちに入会が遅れ、本年8月によりやく新潟県中小企業診断士協会に入会することとなりました。

現在は県内の地方銀行に勤務、昨年4月より本部で融資案件の審査や取引先中小企業の経営改善関連などの業務を担当しております。

県内を営業基盤とする金融機関にとって、地域の発展に貢献することが存在意義であると言われてはいますが、そのためには地域の中小企業へコンサルティング機能を提供することが求められてきています。

自分自身は診断士資格を取得したとはいえ、日常の業務のなかで、中小企業者へコンサルティングを行えるだけの知識・経験が不足していると痛感することが多々あります。

そのため、新潟県中小企業診断士協会への入会を通じ、多くの事を学び、経験を積んでいきたいと思っています。皆様からのご指導よろしく願っています。

皆川 武士



こんにちは！

10月1日に診断士協会に入会いたしました、皆川武士（みながわ たけし）と申します。生まれは長岡ですが、現在は新潟市に在住し、某学校法人にて勤務いたしております。

10年間、東京で働いておりましたが、新潟県、特に生まれ故郷である長岡の発展に寄与したいという思いを胸に、3年前の11月に妻を連れて新潟に帰ってまいりました。

私は診断士としての活動テーマを2つ掲げております。1つが新潟県内企業の販路開拓のための県外展開、及び海外展開へのお手伝い。そして、もう1つが自律的に仕事に取り組むことのできる従業員のいる組織作りです。マーケティングや経営組織論など、今後も学ぶことの多いテーマですが、知識と経験を培ってライフワークにできればいいと考えております。興味のある方は、ぜひお声がけ下さい。

診断士の勉強をしている時に、尊敬する経営コンサルタントの方が、「良い会社とは、会社の成長と従業員の成長を同時に実現していける会社だ」と、教えてくれました。私はその内容を聞いたときに身震いするほどの衝撃を受けました。会社の成長は理解できるけれども、従業員の成長を良い会社の条件とする事に、当時の私は理解ができませんでした。しかし、それから5年が経ち、その意味が理解できるようになりました。そして、そんな「良い会社」をこの新潟の地で誕生させ、支援していく診断士になりたいと思っております。

診断士の仕事紹介

田中 裕輔



独立開業して5年とちょっと経ちました。この間、多くの経営者の方々とお会いし、お話ししてきました。現在、私の仕事の多くが経営改善計画の策定支援となっています。

金融機関に提示する計画ですので、数値が多く、多くの部分を占めます。経営者の考えを数値に落とし込まなければなりません。当然、経営者にも自分の会社の計画なのでから理解して頂かなければ困るのですが、そもそも決算書や月次試算表をほとんど見ていない、見方も分からない経営者もかなり多くいらっしゃいます。

そのような場合には、具体的な支援に入る前に決算書や月次試算表の見方を丁寧に説明するようにしています。質問に備え、私自身も事前にその会社の総勘定元帳に目を通し、大まかな売上と費用構成、顧問経理事務所の会計処理方法を理解しておきます。経理事務所によって仕訳の起こし方にそれぞれ特徴があるからです。

心掛けていることは、できるだけ専門用語を避け、平易な言葉で具体例を挙げて説明をすることです。途中で必ず、「ここまでの私の説明の中で、わかりづらかった点、もう少し聞いてみたい点はありますか？」と投げ掛けるようにしています。聞いている方を置き去りにしないためです。

その説明だけで1時間近くを費やすこともありますが、経営改善の大切な過程だと思っています。計画を実行するのは会社です。計画と実績が乖離した場合、経営者はその要因を正しく理解しなければなりません。財務諸表は、その手掛かりを得るための重要なツールです。

後藤 真人



新潟県診断士協会の皆様、いつもお世話になっております。私が中小企業診断士に登録してから4年がたちましたが、私は、現在、新プロ産業㈱（燃料小売、不動産業）に勤務しております。従業員16名という小さな会社であり、現在は経営全般に携わる立場と不動産業務に従事しております。

2014年版中小企業白書に記載ある通り、弊社でも同様の経営課題に直面しております。

- ◆需要・販路開拓。人口減少・過疎化に伴う需要の縮小や、高齢化等に伴う消費者のニーズの変化にどう対応していくか
- ◆住民との信頼関係を活かしたニッチな需要の掘り起こし

また、経済産業省は2017年をメドに「都市ガスの小売りを家庭向けも含めて全面自由化する」よう、2015年の通常国会にガス事業法の改正案を提出する予定であります。このように大きな外部環境変化、また事業承継などの内部環境変化、日々経営課題に直面し、その中で中小企業診断士として活動してきた知識・経験を活かすよう日々取り組んでおります。この様な状況下において、現在は事業の多角化に取り組んでおります。不動産事業も1年半前に新たに多角化した事業の1つであります。限られた経営資源の中で多角化するのは容易なことではなく、多角化するにあたっては支援機関様からの情報提供やマッチング等を積極的に活用し、M&Aも重要な経営戦略の1つとして取り組んでおります。今後、診断士協会の皆様にお力をお借りするお願いをさせて頂きたく、その際にご支援とご指導の程よろしくお願い申し上げます。

特集 診断士への道

私の合格体験記

赤池 栄亮



今回、中小企業診断士受験講座の「経営情報システム」の講師を担当させていただくこととなりました赤池と申します。

合格体験記というほどたいした内容ではないですが、少し書かせていただきます。

診断士試験は3回目の挑戦で合格することができました。挑戦した当初は「大変なものに手を出してしまった」という印象でした。

しかしながら途中でやめるのも癪に障るので、途中からは「意地でも合格してやる」というモチベーションで勉強をしていたのを覚えています。

勉強をしていて苦労した点は二つあります。

まずひとつは「晩酌と勉強の両立」です。

私はお酒が大好きで、ほぼ毎日晚酌をしていました。試行錯誤をくり返し、「お酒を飲みたいときには飲んで、早朝やスキマ時間に集中して勉強する」という勉強法(?)を確立しました。この習慣は今も活かしており、昔の自分よりは時間を有効に活用できているとは思っています。

ふたつ目は「生授業ではなく通信講座での勉強だった」ことです。新潟で診断士の講座を受けるには東京などに通うか通信講座しかありません。

私は通信講座を受講していました。その講座の試験直前対策で、東京に授業を受けに行った際、やはり顔と顔を突き合わせて授業を受けるというのは良いものだとしみじみ感じました。

この点、今回の協会主催の講座は新潟で診断士を目指す方にとって、とてもいい機会になるのではないかと思います。

私も講師として微力ながら受講生の方々のお力になれるよう努める所存です。

私の合格体験記

白倉 雅晴



私は中小企業診断士の受験勉強を始めてから2次試験合格まで8年の時間を費やしました。

最初の1次試験に合格したのが3年目でした。合格した前年に単身赴任となり、勉強量を確保で

きたからだろうと思っています。1次試験1ヵ月前に異動したため直前は全く勉強できず、受験見送りも考えましたが、来年のためと思い受験したところ無欲が合格を導きました。

2次試験合格までには更に5年かかりました。4回不合格となった第1の原因は、自分が金融機関で経験してきたことや気が付いたアイデアを答案に盛り込んだため、主題者の意図とずれてしまったのだろうと思っています。第2の原因は通信講座の意図を勘違いしていたことにあると思っています。受講していたTACの通信講座ではローリスク答案作成を推奨していました。そこで、可能性のある要因を全て盛り込むという答案を繰り返し書いていました。その結果、焦点がぼける答案になってしまったのだろうと思っています。

そんな私が5回目で2次試験に合格したのは、「世界一かんたんな答案作成術」という本で設問を解答に反映させることを学んだことに加え、異動によって自宅から通勤できる職場となり、1次試験合格後から毎朝2次試験の過去問を繰り返すことができたからだと思います。

合格しなければ費やした時間や資金を sunk cost にしてしまうと思い、諦めずに挑戦しつづけました。人生では努力が報われないことが多々ありますが、結果を残せて本当によかったと思っています。この資格をこれからの人生に生かしていきたいと考えています。

私の合格体験記

伊原 英一



この度、寄稿させて頂くことになりました伊原英一と申します。私自身、診断士登録は平成23年9月ですので、合格してからすでに3年以上経過しておりますが、少しでもお役に立てれば幸いです。

中小企業診断士試験は一次試験・二次試験(筆記・口述)からなりますが、この試験の最大の山場は二次試験(筆記)です。私自身もそうでしたが、一次試験を合格した時点でなんとなくホッとしてしまい、やり切った感覚を覚えますが、一次試験合格だけでは何もなりません。二次に合格してこそその試験です。ぜひ早い段階から二次試験対策を始めることをお勧めします。

二次試験は暗記中心の一次試験と違い、独学での受験対策が立てにくいことから、資格学校の二次試験対策講座受講を検討したのですが、仕事も忙しく金額も高額だったことから断念し、ひたすら独学で取り組みました。過去問のみに絞りを絞り『中小企業診断士2次試験事例攻略のセオリー』(ダイエックス出版)を徹底的にやり込みました。この本は解説が分かりやすく、おすすめの対策本です。

もう一つ、二次試験対策で重要なのが、タイムマネジメントです。80分間に与件文・設問文を読み、SWOT分析、各設問間の整合性を取りつつ、制限字数内で解答を記入する、というのはかなり時間にシビアな試験です。日頃から「制限時間」を意識してトレーニングされることをお勧めします。

私自身、幸運にも合格できましたが、忙しい仕事の合間に未来に向けて自分に投資することはとても意義あることだと思います。受験を志していられる皆様はぜひとも強い信念を持

って勉強を続けてください。健闘をお祈りしています。

診断士協会 Q&A

ある新入会員の方から、「入会するまで診断士協会がどのような活動をしている組織かわからなかった」という意見を頂きました。

そこで、新入会員の皆様や、本誌を手にする非会員の皆様に、協会活動に対する理解を深めて頂くため、Q&Aを作成しました。

Q1. 協会員数は何名ですか？

84名（平成26年10月31日現在）

Q2. 協会の主な活動内容はどのようなものがありますか？

協会には研修委員会、総務委員会、事業開発委員会、広報委員会の4つの委員会があり、それぞれの委員会が役割を持って活動しています。

協会員の皆様にはいずれかの委員会に所属頂いており、活発な活動を展開しております。

詳細については、本誌P2「協会活動報告」をご覧ください。

【研修委員会】

- ・中小企業診断士に求められる能力を継続的に研鑽するための研修の企画
- ・企業内診断士の活性化に資する活動

【事業開発委員会】

- ・金融機関、中小企業支援機関、自治体等の外部機関と連携し、地域の中小企業の活性化に貢献するための事業開発

【総務委員会】

- ・定例的な年間の協会行事の企画・運営
- ・会員同士はもちろん、非会員を含めた交流や情報交換の促進

【広報委員会】

- ・広報誌の作成や名簿作成等を通し、会員相

互の情報交流、関係者に向けた協会並び協会員の情報開示、会員・非会員の交流、新規会員の獲得

Q3. 入会金・会費はどうなっていますか？

入会金、会費に関しては正会員・準会員・賛助会員の区別があり、下図のようになっています。

	入会金	年会費
正会員	30,000円	41,000円
準会員	5,000円	12,000円
賛助会員	20,000円	50,000円

【正会員】

中小企業支援法による登録を受けた方

【準会員】

中小企業診断士第1次試験または第2次試験に合格した方

※準会員向けサービス

委員会活動への参加

年間行事への参加

研究会活動への参加

【賛助会員】

本会の目的に賛同し、その事業に協力しようとする法人および個人の方

Q4. 協会員のメリットはどのようなところにありますか？

1. 自己研鑽の場が得られる。

自己研鑽の場として、5つの研究会が設けられています。研究会は定期的開催されており、これら研究会に所属することにより、ご自身のご興味やキャリアに応じて、自己研鑽を図ることができます（複数の研究会に所属することが可能です。また、仲間を募ることにより興味のあるテーマで研究会を立ち上げることも可能となっています）。

実際に複数の研究会に所属され自己研鑽に努められている協会員の皆様も多数いらっしゃいます。

【企業再生支援研究会】

各分野の専門家や外部団体などからの参加もいただき、企業再生に関わる様々な課題の討議を通じて、コンサルティングスキルの向上を目的とした研究を行う会。

【農業研究会】

新潟県農業の振興を図るため、農家視察や調査、意欲ある農業経営体への経営支援を通じて、地域農業の活性化に関する研究を行う会。

【マネジメントシステム最適化研究会】

ISOをはじめとした経営管理の仕組みである中小企業のマネジメントシステムの導入支援、普及状況やコンサルティングに関する研究を行う会。

【商業・サービス経営革新研究会】

平成26年にできた新しい研究会。国の小規模事業者の育成の方針にあわせて、中心市街地活性化、消費税対応など多くの課題を抱える商業サービス事業者の経営革新の研究を行う会。

【事業承継研究会】

事業承継支援における中小企業診断士のコンサルティングスキルの向上と、職域の開拓を目指すことを目的に活動している会

2. 会員同士の情報交流が図れる

各種会合や委員会後に行われる懇親会、研究会の活動を行う中で、集った協会員同士での情報交流を図ることができます。各協会員の専門性やバックグラウンドは様々であり、企業内診断士同士、独立診断士同士、企業内診断士と独立診断士がそれぞれの視点で、世の中の状況や、企業支援に関することを教えたり、教えられたり、情報を提供したり、提供を受けたりすることができます。高い志を持った協会員同士の交流となるため、質の高い情報のやりとりを行うことができます。

また、今後高度かつ複雑な案件の発生が予想されるなか、一緒に仕事をする仲間探しも行うことができます。

広報委員会より

クリップボード

◆平成27年1月24日（土）
新年会（於：新潟グランドホテル）

編集後記

広報委員会 佐野 盛也

今年も残すところあと僅かになりました。

今年度、中村体制のもと各委員会、研究会活動が活発に行われ、診断協会、診断士の認知度が向上し、活躍の場も増えたものと思います。

今回の特集においては、今年度、研修委員会主管による中小企業診断士1次試験受験講座が10月より開催されております。診断士に興味をお持ちの方々の参考になればと思い、3名の会員の皆様から合格体験記をご寄稿いただきました。

広報委員会としては、協会活動、協会員の活動にフォーカスし、会員の皆様が興味深く読める広報誌の作成を目指していきます。

次号以降、様々な企画を検討していきたいと思っています。会員の皆様には、ご寄稿のお願いをすることもあると思いますが、何卒ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

また、企画に関してご要望等ございましたら、お気軽にお申し付け頂ければ幸いです。